



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

十二月 第②週



学習を始める前に

①必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具

②注意

- ・大事だと思われるところはノートに書いてください。
- ・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後のお知らせを見てください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。
- ・必要があるときは、ビデオを止めた
り、もう一度ビデオを見たりして
ください。



先週の宿題より

1. 音読

「わらぐつの中の神様」を読みましょう。

*長い話ですが、楽しく読めると思いますが。なるべくたくさん読んでください。

2. 言葉の学習

次の言葉の意味を調べましょう。

- ① あらかた だいたい。ほとんど。
- ② 迷信 めいしん はつきりしたよりどころのない、つまらないことを信じること。
- ③ 正真正正 せいせいせいせい 間違いなく本物であること。うそいつわりが全くないこと。
- ④ 朝市 あさいち 朝、大勢の人が集まって、物を売り買いするところ。
- ⑤ 気立て きだて 気持ちのもちかた。性質。
- ⑥ 気ぜわしい きぜわしい 気持ちがあせて落ち着かない。
- ⑦ すすけた。 すすけた うすよごれた
- ⑧ あかぎれ あかぎれ 寒さのために手足のひふがさけたもの。
- ⑨ なだめる なだめる 悲しんだりおこったりしている人の心をしずめる。
- ⑩ きょうしゆく きょうしゆく もうしわけなく思う。

《新しい漢字》

構成 構 構 構 構 構 構 構 構 構 構 構

精 精 精 精 精

格好 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格

編む 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編 編

編 編 編 編 編

職人 職 職 職 職 職 職 職 職 職 職 職 職 職 職 職

職 職 職 職 職 職 職 職 職 職

《新しい読み方の漢字》

断る 断 断 断 断

不細工 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不 不

《特別な読み方の漢字》

眼鏡 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼 眼



読み方をノートに書きましよう。

構
成

格
好

編
む

職
人

断
る

不
細
工

眼
鏡



読み方をノートに書きましょう。

答え合わせをしましょう。

構成

こうせい

格好

かっこう

編む

あむ

職人

しよくにん

断る

ことわる

不細工

ぶさいく

眼鏡

めがね

雪がしんしんとふっています。

マサエは、おばあちゃんといっしょにこたつに当たりながら、本を読んでいます。

今夜は、お父さんはとまり番でかえってきません。お風呂好きのおじいちゃんは、「この寒いのにー。」と、みんなに笑われながら、さつきおふろ屋さんへ出かけていきました。あとは、お母さんが台所で夕ご飯の後かたづけをしてる音が聞こえるだけで、辺りはとても静かです。

風が出てきたらしく、まどのしろうじがカタカタと鳴りました。雪がサラサラと雨戸に当たって落ちていきます。

マサエは、ふと思いついて、台所のお母さんをよびました。

「お母さん、わたしのスキーぐつ、かわいてる。あした、学校でスキーの日だよ。」

お母さんが、水音を立てながら答えました。

「おや、あしただったの。それじゃ、もう一度見てごらん。さつき、新聞紙を丸めて入れといたから、**あらかた**かわいたと思うけど。」
〈あらかた だいたい。ほとんど。〉

マサエは夕方まで、友達と近くのおかでスキーをしていました。今日は一度しか転ばなかったのですが、スキーぐつもズボンも、そんなにぬれないつもりでしたが、帰ってきて見たら、やっぱりいつものようにぐつしよりになっていたのです。

「かわいているといいけどな。あんなにおそくまで、すべってなきやよかった。」

マサエは、独りでそんなことを言いながら台所へかけて行って、しきいに立てかけてあるスキーぐつから、しめっぽい新聞紙の玉を五つ六つ取り出して、手をつっこんでみました。くつの中はじわりと冷たくて、せなかまでぶるつとなりそうです。

「うへえ、つめたあい。お母さん、どうするう。」

「新しい新聞紙とかえてごらん。ひものところも、しっかりくるむようにしてね。あしたまでには、なんとかかわくだろう。」

〈言葉の学習〉

しろうじ 部屋の仕切りに使う、木のわくに細かい

さんをつけ、それに紙をはったもの。

雨戸 ガラス戸などの外側に雨風を防ぐためや、戸じまりのために閉める戸。



内容を深く考えよう。

「かわくかなあ。なんだか、まだびしょびしょみたいだよ。」
すると、茶の間のこたつから、おばあちゃんが口を出しました。

「かわかんかったら、わらぐつはいていきなさい。」
あつたかくて。」

「やだあ、わらぐつなんて、(みつともない。)みつたぐない。だれもはいてる人ないよ。
だいいち、大きすぎて、金具にはまらんわ。」

マサエは、大きな声で言いながら、①たんすのそばに重ねてある新聞紙を取ってきて、くるくる丸めては、せつせとスキーぐつの中につめこみました。ぎゅうぎゅう力を入れておしこむと、ぬれたビニル皮がぽっこりとふくらんで、まだいくらでも入りそうです。

おばあちゃんが、また言いました。

「そういったもんでもないさ。②わらぐつはいいもんだ。あつたか
いし、軽いし、すべらんし。そうそう、それに、わらぐつの中
には神様がいなさるでね。」

「わらぐつの中に、神様だって。」

(1) おばあちゃんは、スキーぐつがかわかなかったら、どうすればいいと言っていますか。

(2) 線①「たんすのそばに重ねてある新聞紙・・・つめこみました。」とありますが、新聞紙は何に使うのですか。

(3) 線②「わらぐつはいいもんだ。」とありますが、おばあちゃん
は、わらぐつのどこがいいと言っていますか。

(4) マサエとおばあちゃんの、わらぐつに対する思いはどのよ
うにちがっていますか。本文の言葉を使って書きましよう。

マサエ―わらぐつは()。
おばあちゃん―わらぐつは()。

わらぐつの中には()。



内容を深く考えよう。

「かわくかなあ。なんだか、まだびしょびしょみたいだよ。」
すると、茶の間のこたつから、おばあちゃんが口を出しました。

「かわかんかったら、わらぐつはいていきなさい。^(いきなさい。) わらぐつはいいど、
あつたかくて。」

「やだあ、わらぐつなんて、^(みつともない。) みつたぐない。だれもはいてる人ないよ。
だいいち、大きすぎて、金具にはまらんわ。」

マサエは、大きな声で言いながら、①たんすのそばに重ねてある新聞紙
を取ってきて、くるくる丸めては、せつせとスキーぐつの中につめこ
みました。ぎゅうぎゅう力を入れておしこむと、ぬれたビニル皮が
ぽっこりとふくらんで、まだいくらでも入りそうです。

おばあちゃんが、また言いました。

「そういったもんでもないさ。②わらぐつはいいもんだ。あつたか
いし、軽いし、すべらんし。そうそう、それに、わらぐつの中
には神様がいなさるでね。」

「わらぐつの中に、神様だって。」

(1) おばあちゃんは、スキーぐつがかわかなかつたら、どうすればい
いと言っていますか。

わらぐつをはいていけばいい。

(2) ー線①「たんすのそばに重ねてある新聞紙・・・つめこみまし
た。」とありますが、新聞紙は何に使うのですか。

スキーぐつをかわかすために、くつの中に入れる。

(3) ー線②「わらぐつはいいもんだ。」とありますが、おばあちゃん
は、わらぐつのどこがいいと言っていますか。

あつたかいし、軽いし、すべらない。

(わらぐつには神様がいる。)

(4) マサエとおばあちゃんの、わらぐつに対する思いはどのよ
うにちがっていましたか。本文の言葉を使って書きましよう。

マサエーわらぐつは**(みつたぐない)**。

おばあちゃんーわらぐつは**(いいもんだ)**。

わらぐつの中には**(神様がいなさる)**。



マサエは、新聞紙の玉をすっかりつめこんでしまつて、こたつへもどつてきました。ぬれた物をいじつた手が、つうんとこおりそうです。

「そんなの**迷信**でしよ、おばあちゃん。」

「おやおや、なにが迷信なもんかね。**真正正しい**、ほんとの話だよ。」
おばあちゃんは、まじめな顔になつて、眼鏡を外しました。

「それじゃあ、ひとつ、わらぐつの話をしてやるかね。わらぐ

つの中に神様の(いなさった)いなつた話をね。」

そこへ、お母さんも台所をすませて、赤くなつた手をふきふき、こたつに入つてきました。

「どれどれ、わたしも聞かせてもらいましようかね。ーそういえば、

おじいちゃんは、おふろおそいわね。こんでるのかしら。」

「なあに、おじいちゃんは昔から長湯が好きでね。こもうとこむまいと、ゆつくり楽しんでなさるのさ。じゃあ、話そうかね。」

おばあちゃんはそう言つて、雪の音にちよつと耳をすましてから、こんな話をはじめました。

《特別な読み方の漢字》

めがね
眼鏡

《言葉の学習》

迷信 はつきりしたよりどころのない、つまらないことを信じること。
真正正しい 間違いなく本物であること。うそいつわりが全くないこと。



―昔、この近くの村に、おみつさんというむすめが住んでいました。おみつさんは、特別に美しいむすめというわけでもありませんでしたが、体がじょうぶで、気立てがやさしくて、いつもほがらかにくると働いていたので、村じゅうの人たちから好かれていました。

さて、このおみつさんが、ある秋の朝、^①町の朝市へ、野菜を売りに出かけました。もう冬が近いので、すれちがう人たちも、なんだか気ぜわしそうに前かがみになって歩いていきます。おみつさんの足も、それにつられたように自然と速くなりました。

町へ入るとすぐの四つ角に、げた屋さんがあって、大きなげたの形をした、^②すすけたかんばんが出ています。その前を通るとき、おみつさんはふと足を止めました。入り口近くの台の上に、かわいらしい雪げたが一足かざってあるのが目についたのです。

白い、軽そうな台に、ぱっと明るいオレンジ色のはなお。上品な、くすんだ赤い色のつま皮は、黒いふっさりとした毛皮のふち取りでかざられています。見ただけで、わかいむすめさんの、はなやかな冬によそおいが、目の前にうかんでくるようです。

(1) おみつさんはどんなむすめでしたか。

(2) ー線①「町の朝市」に、おみつさんは何をしに行ったのですか。

(3) ー線②「足を止めました。」とありますが、なぜですか。

(4) おみつさんが見つけた雪げたは、どんな雪げたですか。

〈言葉の意味〉

つま皮

雨やどろをよけるために、げたのつま先に付けたおおい。

ふっさり

ふさふさしている様を表す言葉。



「昔、この近くの村に、おみつさんというむすめが住んでいました。おみつさんは、特別に美しいむすめというわけでもありませんでしたが、体がじょうぶで、気立てがやさしくて、いつもほがらかにくると働いていたので、村じゅうの人たちから好かれていました。」

さて、このおみつさんが、ある秋の朝、^①町の朝市へ、野菜を売りに出かけました。もう冬が近いので、すれちがう人たちも、なんだか気ぜわしそうに前かがみになって歩いていきます。おみつさんの足も、それにつられたように自然と速くなりました。

町へ入るとすぐの四つ角に、げた屋さんがあって、大きなげたの形をした、^②すすけたかんばんが出ています。その前を通るとき、おみつさんはふと足を止めました。入り口近くの台の上に、かわいらしい雪げたが一足かざつてあるのが目についたのです。

白い、軽そうな台に、ぱっと明るいオレンジ色のはなお。上品な、くすんだ赤い色のつま皮は、黒いふっさりとした毛皮のふち取りでかざられています。見ただけで、わかいむすめさんの、はなやかな冬によそおいが、目の前にうかんでくるようです。

(1) おみつさんはどんなむすめでしたか。

特別に美しいむすめというわけでもなかったが、体がじょうぶで、気立てがやさしくて、いつもほがらかにくると働いていた。

(2) 一線①「町の朝市」に、おみつさんは何をしに行ったのですか。
野菜を売りに行きました。

(3) 一線②「足を止めました。」とありますが、なぜですか。
げた屋さんの入り口近くの台の上に、かわいらしい雪げたが一足かざつてあるのを見つけたから。

(4) おみつさんが見つけた雪げたは、どんな雪げたですか。
オレンジ色のはなお。黒いふっさりとした毛皮でふち取りされた上品なくすんだ赤色のつま皮。

〈言葉の意味〉

つま皮

雨やどろをよけるために、げたのつま先に付けたおおい。

ふっさり

ふさふさしている様を表す言葉。



おみつさんは、その雪げたがほしくてたまらなくなりました。「でも、きつとたかいんだらうな。」^①

うら返しになってるねだんの札を、あかぎれの指でそつとめくつてみると、思ったとおり、とてもとても、おみつさんのこづかいで買えるねだんではありません。「負けてくれと言ったって、とてもだめだらうしねえー。」

おみつさんは、しばらくそこ^②に立って、すい付けられたようにその雪げたをながめていました。

「いらつしゃい。何をあげますかいね。」

おみつさんがあんまり長いこと立っていたので、店のおくからおかみさんが出てきて声をかけました。おみつさんは、真っ赤になって、口の中でも何かもごもごも言いながら、にげるように店の前をはなれました。

けれども、市で野菜を売っている間も、あの雪げたのことが、おみつさんの頭をはなれません。いつもは、よけいな物など、欲しいと思ったことのないおみつさんなのに、どうしたことか、この雪げたばかりは、なんとしてもあきらめられないのです。

④市の帰りに、おみつさんは、またあの店の前を通りました。ほかのお客にまぎれて、ちらりと目をやると、赤いつま皮の雪げたは、朝と同じ所に、ちゃんとぎょうぎよくならんでいます。

(1) ー線① 「ねだんの札を、あかぎれの指でそつとめくつてみると」とありますが、雪げたにはどんなねだんがついていましたか。

(2) ー線② 「そこ」というのはどこですか。

(3) ー線③ 「いらつしゃい。何をあげますかいね。」とだれに言われたのですか。また、なぜそう言われたのですか。

(4) ー線④ 「市の帰り」おみつさんは、どこに来ましたか。また、それはなぜだと思いますか。



おみつさんは、その雪げたがほしくてたまらなくなりました。「でも、きつとたかいんだろうな。」^①

うら返しになっているねだんの札を、あかぎれの指でそつとめくつてみると、思ったとおり、とてもとても、おみつさんのこづかいで買えるねだんではありません。「負けてくれと言ったって、とてもだめだろうしねえー。」

おみつさんは、しばらくそこ^②に立って、すい付けられたようにその雪げたをながめていました。

「いらつしやい。何をあげますかいね。」^③

おみつさんがあんまり長いこと立っていたので、店のおくからおかみさんが出てきて声をかけました。おみつさんは、真っ赤になって、口の中でも何かもごもごも言いながら、にげるように店の前をはなれました。

けれども、市で野菜を売っている間も、あの雪げたのことが、おみつさんの頭をはなれません。いつもは、よけいな物など、欲しいと思ったことのないおみつさんなのに、どうしたことか、この雪げたばかりは、なんとしてもあきらめられないのです。

④市の帰りに、おみつさんは、またあの店の前を通りました。ほかのお客にまぎれて、ちらりと目をやると、赤いつま皮の雪げたは、朝と同じ所に、ちゃんとぎょうぎよくならんでいます。

(1) ー線① 「ねだんの札を、あかぎれの指でそつとめくつてみると」とありますが、雪げたにはどんなねだんがついていましたか。

とてもおみつさんのこづかいで買えるねだんではなかった。

(2) ー線② 「そこ」というのはどこですか。

げた屋の雪げたがかざってある所。

(3) ー線③ 「いらつしやい。何をあげますかいね。」とだれに言われたのですか。また、なぜそう言われたのですか。

げた屋のおかみさん

おみつさんが長いことげた屋さんの前に立っていたから。

(4) ー線④ 「市の帰り」おみつさんは、どこに来ましたか。また、それはなぜだと思えますか。

雪げたがあるげた屋さん。

赤いつま皮の雪げたを見たかったから。



「ねえ、わたしを買ってください。あんたが買ってくれたら、うれしいな。」

おみつさんには、雪がたがそうよびかけているように思われました。家に帰ったおみつさんは、思い切って、お父さんとお母さんに、雪がたのことをたのんでみました。

「なんだ、雪がたなんて。そんなぜいたくなもん、わざわざ買うことはねえだろう。」

お父さんは、そう言って相手にしてくれません。

「物ねだりしたことのないおみつのことだから、買ってやりたいのはやまやまなんだけどね。――まあ、おまえが町へよめに行くようなことにでもなったらねー。」

おかあさんは、言葉をにっこしています。

「姉ちゃんが買うんなら、おらにも買って。」

「きれいな雪がた、あたいもはいてみたいな。」

小さい弟と妹がわいわい言いだったので、おみつさんも、もう自分のねだり事どころではなく、一生けんめい、子どもたちのなだめ役にまわらなくてはなりませんでした。

その夜、おみつさんは考えました。「うちのくらしだって、大変なんだもの。買ってもらえないのも無理はない。そうだ、自分で働いて、お金を作ろう。そして、あの雪がたを買おう。」

おみつさんのお父さんは、わらぐつを作るのが上手でした。おみつさんも、いつもそれを見ているので、作り方くらいは分かります。おみつさんは、さっそく、毎晩、家の仕事をすませてから、わらぐつを作り始めました。

《言葉の学習》

やまやま たくさんあるさま。山ほど。

にごす はつきししないさま



なだめ役 悲しんだりおこったりしている人の心をしずめる役。

お父さんの作るのを見てみると、たやすくできるようですが、自分でやってみると、なかなか思うようにはいきません。でも、おみつさんは、少しくらい格好が悪くても、はく人がはきやすいように、あったかのように、少しでも長持ちするようにと、心をこめて、しつかりしつかり、わらを編んでいきました。

さて、やつと一足作りあげてみると、われながら、いかにも変な格好です。右と左と、大きさもちがうし、なんだか首をかしげたみたいに、足首の上のところ曲がっています。底もでこぼこしていて、ちゃんと置いてもふらふらするようです。その代わり、上からつま先まで、すき間なく、きつちりと編みこまれていて、じょうぶなことは、このうえなしです。

「そんなおかしなわらぐつが、売れるかなあ。」

うちの人はそう言って、笑ったり心配したりしましたが、それでもおみつさんは、朝市の立つ日になると、野菜を入れた大かごにそのわらぐつを結び付けて、元気よく町へ出ていきました。

げた屋さんの前を通るとき、横目で見ると、あの雪げたは、まだちゃんとそこにありました。おみつさんは、その雪げたが、ほんのちよっぴり自分の手のとどく所へ出てきたような気がして、楽しくなりました。

(1) おみつさんは、わらぐつをどのように編みましたか。

(2) 一線「やつと一足作りあげてみると」とありますが、そのわらぐつはどんな様子でしたか。3つ書きましょう。

(3) おみつさんは、いつそのわらぐつを売りましたか。



お父さんの作るのを見てみると、たやすくできるようですが、自分でやってみると、なかなか思うようにはいきません。でも、おみつさんは、少しくらい格好が悪くても、はく人がはきやすいように、あったかのように、少しでも長持ちするようにと、心をこめて、しっかりしつかり、わらを編んでいきました。

さて、やつと一足作りあげてみると、われながら、いかにも変な格好です。右と左と、大きさもちがうし、なんだか首をかしげたみたいに、足首の上のところ曲がっています。底もでこぼこしていて、ちゃんと置いてもふらふらするようです。その代わり、上からつま先まで、すき間なく、きつちりと編みこまれていて、じょうぶなことは、このうえなしです。

「そんなおかしなわらぐつが、売れるかなあ。」

うちの人はそう言って、笑ったり心配したりしましたが、それでもおみつさんは、朝市の立つ日になると、野菜を入れた大かごにそのわらぐつを結び付けて、元気よく町へ出ていきました。

げた屋さんの前を通るとき、横目で見ると、あの雪げたは、まだちゃんとそこにありました。おみつさんは、その雪げたが、ほんのちよっぴり自分の手のとどく所へ出てきたような気がして、楽しくなりました。

(1) おみつさんは、わらぐつをどのように編みましたか。
少しくらい格好が悪くても、はく人がはきやすいように、あったかのように、少しでも長持ちするようにと、心をこめて、しっかりしつかり、わらを編んだ。

(2) 一線「やつと一足作りあげてみると」とありますが、そのわらぐつはどんな様子でしたか。3つ書きましょう。

右と左と大きさがちがって、首をかしげたみたいに、足首の上のところ曲がっている。底もでこぼこしていて、ちゃんと置いてもふらふらする。その代わり、上からつま先まで、すき間なく、きつちりと編みこまれている。

(3) おみつさんは、いつそのわらぐつを売りましたか。
朝市の立つ日



それから、まっすぐ朝市に出てきたおみつさんは、いつものがんぎの下に、**むしろ**を広げて野菜をならべ、そのはしっこにわらぐつを置きました。そして、野菜を買ってくれる人があると、

「わらぐつはどうですね。」

とすすめてみるのですが、こちらはなかなか売れません。くすくす笑ったり、あきれた顔をしたりして、

「いいや、よかったでね。」

と**断る**のはまだいいほうで、なかには、

「へええ、それ、わらぐつかね。おらまた、わらまんじゅうかと思っ
た。」^①

などと、**あけすけ**なことを言う、口の悪い人もいます。「やっぱり、わたしが作ったんじや、だめなのかなあ。」おみつさんはがっかりして、**不細工**なわらぐつを見つめました。

やがて、お昼近くになって、野菜はほとんど売れてしまったし、あきらめてもう帰ろうかと思っていると、おみつさんのむしろの前に、わか
い男の人が立ちました。^②どうやら大工さんらしく、いせいのいいねじりはちまきに、大きな道具箱をかついでいます。

(1) おみつさんは、朝市のどこでわらぐつを売りましたか。

(2) |線①「あけすけ」とはどんな意味ですか。また、「あけすけ」なことを言われたおみつさんは、どう思いましたか。

(3) |線②「どうやら大工さんらしく」とありますが、なぜそう思ったのですか。

《新しい読み方の漢字》

断る こと 不細工 サイ



それから、まっすぐ朝市に出てきたおみつさんは、いつもの**がんぎ**の下に、**むしろ**を広げて野菜をならべ、そのはしっこにわらぐつを置きました。そして、野菜を買ってくれる人があると、

「わらぐつはどうですね。」

とすすめてみるのですが、こちらはなかなか売れません。くすくす笑ったり、あきれた顔をしたりして、

「いいや、よかったでね。」

と**断る**のはまだいいほうで、なかには、

「へええ、それ、わらぐつかね。おらまた、わらまんじゅうかと思っ
た。」^①

などと、**あけすけ**なことを言う、口の悪い人もいます。「やっぱり、わたしが作ったんじや、だめなのかなあ。」おみつさんはがっかりして、**不細工**なわらぐつを見つめました。

やがて、お昼近くになって、野菜はほとんど売れてしまったし、あきらめてもう帰ろうかと思っていると、おみつさんのむしろの前に、わか
い男の人が立ちました。^②どうやら大工さんらしく、いせいのいいねじりはちまきに、大きな道具箱をかついでいます。

(1) おみつさんは、朝市のどこでわらぐつを売りましたか。

がんぎの下に、むしろを広げて野菜をならべ、そのはしっこにわらぐつを置いて売った。

(2) ー線①「あけすけ」とはどんな意味ですか。また、「あけすけ」なことを言われたおみつさんは、どう思いましたか。

何でもずばずば言う様子。

自分が作ったわらぐつではだめなのかと、がっかりした。

(3) ー線②「どうやら大工さんらしく」とありますが、なぜそう思ったのですか。

ねじりはちまきをして、大きな道具箱をかついでいたから。



《新しい読み方の漢字》

断る こと 不細工 サイ



①「あねちや、そのわらぐつ、見せてくんない。」
そう声をかけられると、おみつさんは、やはりきまりが悪くなって、
「あんまり、みつともよくねえわらぐつでー。」
と赤くなりながら、おずおずとわらぐつを差し出しました。
わかい大工さんは、道具箱をむしろの上に置いて、そのわらぐつを
手に取ると、たてにしたり横にしたりして、しばらくながめてから、
今度はおみつさんの顔^②をまじまじと見つめました。
「このわらぐつ、^(おまえさん)^(作った)おまんが作んなったのかね。」
「はあ、おらが作ったんです。初めて作ったもんで、うまくできね
かったけどー。」
「ふうん、よし、もらつところ。いくらだね。」
大工さんはお金をはらつて、わらぐつのひもを慣れた手つきで結
び合わせ、道具箱といっしょにひよいとかつぐと、さっさと行って
しまいました。

(1) ー線①「あねちやそのわらぐつ、見せてくんない。」につい
て答えましょう。

(一) 「見せてくんない」とはどういう意味ですか。

(二) 「あねちや、そのわらぐつ、見せてくんない。」と言われた
おみつさんは、どうしましたか。

(2) ー線②「顔をまじまじと見つめました」とありますが、なぜ
大工さんはおみつさんの顔をまじまじと見つめたのだと思います
か。



①「あねちや、そのわらぐつ、見せてくんない。」
そう声をかけられると、おみつさんは、やはりきまりが悪くなって、
「あんまり、みつともよくねえわらぐつでー。」
と赤くなりながら、おずおずとわらぐつを差し出しました。
わかい大工さんは、道具箱をむしろの上に置いて、そのわらぐつを
手に取ると、たてにしたり横にしたりして、しばらくながめてから、
今度はおみつさんの顔^②をまじまじと見つめました。
「このわらぐつ、^(おまえさん)^(作った)おまんが作んなったのかね。」
「はあ、おらが作ったんです。初めて作ったもんで、うまくできね
かったけどー。」
「ふうん、よし、もらつところ。いくらだね。」
大工さんはお金をはらつて、わらぐつのひもを慣れた手つきで結
び合わせ、道具箱といっしょにひよいとかつぐと、さっさと行って
しまいました。

(1) ー線①「あねちやそのわらぐつ、見せてくんない。」につい
て答えましょう。

(一) 「見せてくんない」とはどういう意味ですか。

見せてください。

(二) 「あねちや、そのわらぐつ、見せてくんない。」と言われた
おみつさんは、どうしましたか。

赤くなりながら、おずおずとわらぐつを差し出した。

(2) ー線②「顔をまじまじと見つめました」とありますが、なぜ
大工さんはおみつさんの顔をまじまじと見つめたのだと思います
か。

格好は悪くても、すき間なく、きつちりと編みこまれていて、
じょうぶそうなわらぐつを、おみつさんが編んだのかとおどろいた
から。



おみつさんは、初めて^①わらぐつが売れたので、うれしくてうれしくて、わかい大工さんをおがみたいような気がしました。

その次の市の日までに、おみつさんは、また一つ、わらぐつを編みあげました。前のよりは、いくらか形よくできました。「今度もうまく売れるといいけどー。」

おみつさんが、わらぐつを持って市に出て、この前のように野菜と^②いっしょにならべておくと、今度はあまり待たないうちに声をかけられました。

「そのわらぐつ、くんない。」

ひよいと顔を上げてみると、まあ、どうでしょう。それは、この間もわらぐつを買ってくれた、あのわかい大工さんなのです。おみつさんはおどろきました。言われるままに、またわらぐつを売って、お金を受け取りました。

(1) ー線①「初めてわらぐつが売れた」ので、おみつさんはどう思いましたか。

(2) その次の市の日までに、おみつさんはどうしましたか。

(3) ー線②「今度はあまり待たないうちに声をかけられました」とありますが、だれに声をかけられたのですか。また、その人は何といたのか、分かりやすい言葉で書きましょう。



おみつさんは、初めてわらぐつが売れたので、うれしくてうれしくて、わかい大工さんをおがみたいような気がしました。

その次の市の日までに、おみつさんは、また一つ、わらぐつを編みあげました。前のよりは、いくらか形よくできました。「今度もうまく売れるといいけどー。」

おみつさんが、わらぐつを持って市に出て、この前のように野菜といっしょにならべておくと、今度はあまり待たないうちに声をかけられました。

「そのわらぐつ、くんない。」

ひよいと顔を上げてみると、まあ、どうでしょう。それは、この間もわらぐつを買ってくれた、あのわかい大工さんなのです。おみつさんはおどろきました。言われるままに、またわらぐつを売って、お金を受け取りました。

(1) ー線①「初めてわらぐつが売れた」ので、おみつさんはどう思いましたか。

うれしくて、わかい大工さんをおがみたいような気持ちでした。

(2) その次の市の日までに、おみつさんはどうしましたか。

またわらぐつを一つ編んで市に出て、野菜と一緒に並べておいた。

(3) ー線②「今度はあまり待たないうちに声をかけられました」とありますが、だれに声をかけられたのですか。また、その人は何といたのか、分かりやすい言葉で書きましょう。

この間わらぐつを買ってくれた、わかい大工さん。

「そのわらぐつをください。」



その次の市の日も、またあの大工さんが来て、わらぐつを買ってくれました。その次も、またその次も、おみつさんが市に出るたびに、あの大工さんが必ずやって来て、不格好なわらぐつを買ってくれるのです。おみつさんは、いつの間にか、その大工さんの顔を見るのが楽しみになっていました。こんなに続けて買ってくれるのが不思議でもあるので、とうとうある日、思い切ったはずねてみました。

「あのう、いつも買ってもらって、ほんとにありがたいんだけど、あの、おらの作ったわらぐつ、もしかしたら、すぐいたんだりして、それで、しよっちゅう買ってくんなさるんじゃないんですか。もし、そんなんだったら、おら、もうしわけなくてー。」

すると大工さんは、にっこりして答えました。

「いやあ、とんでもねえ。おまんのわらぐつは、とてもじょうぶだよ。」

「そうですかあ。よかった。でも、そんなら、どうしてあんなにたくさんー。」

すると、大工さんはちよつと赤くなりました。

「ああ、そりや、じょうぶでいいわらぐつだから、仕事場の仲間や、近所の人たちの分も買ってやったんだよ。」

「まあ、そりやどうもー。だけど、あんな不格好なわらぐつでー。」
おみつさんがきょうしゆくすると、大工さんは、急にまじめな顔になって言いました。

《言葉の学習》

しよちゆう

いつも。

きょうしゆく

もうしわけなく思う。

「おれは、わらぐつこさえたことはないけども、おれだって**職人**だから、仕事のよしあしは分かるつもりだ。いい仕事ってのは、見かけで決まるもんじゃやない。使う人の身になって、使いやすく、じょうぶで長持ちするように作るのが、^①ほんとのいい仕事ってもんだ。おれなんか、まだわかぞうだけど、今にきつと、そんな仕事のできる、いい大工になりたいと思っっているんだ。」

おみつさんは、こっくりこっくりうなずきながら聞いていました。自分といくらも年のちがわないこの大工さんが、なんだかとてもたのもしくて、えらい人のような気がしてきたのです。

それから、大工さんは、いきなりしゃがみこんで、おみつさんの顔を見つめながら言いました。

「なあ、おれのうちへ来てくんないか。そして、いつまでもうちにいて、おれにわらぐつを作ってくんないかな。」

おみつさんは、ぽかんとして、大工さんの顔を見ました。そして、しばらくして、^②それが、おみつさんによめに来てくれということなんだと気がつくと、白いほおが夕焼けのように赤くなりました。

(1) ー線①「ほんとのいい仕事」とありますが、大工さんが言ったほんとのいい仕事とは、どんなものですか。3つ書きましょう。
使う人の身になって、

- ① ()、
② ()で
③ ()ように作ること

(2) ー線②「それ」がさしている文章を書きましよう。

《新しい漢字》しよく職人



「おれは、わらぐつこさえたことはないけども、おれだって職人だから、仕事のよしあしは分かるつもりだ。いい仕事ってのは、見かけで決まるもんじゃやない。使う人の身になって、使いやすく、じょうぶで長持ちするように作るのが、ほんとのいい仕事^①ってもんだ。おれなんか、まだわかぞうだけど、今にきつと、そんな仕事のできる、いい大工になりたいと思ってるんだ。」

おみつさんは、こっくりこっくりうなずきながら聞いていました。自分といくらも年のちがわないこの大工さんが、なんだかとてもたのもしくて、えらい人のような気がしてきたのです。

それから、大工さんは、いきなりしゃがみこんで、おみつさんの顔を見つめながら言いました。

「なあ、おれのうちへ来てくんないか。そして、いつまでもうちにいて、おれにわらぐつを作ってくんないかな。」

おみつさんは、ぽかんとして、大工さんの顔を見ました。そして、しばらくして、^②それが、おみつさんによめに来てくれということなんだと気がつくと、白いほおが夕焼けのように赤くなりました。

(1) ー線①「ほんとのいい仕事」とありますが、大工さんが言ったほんとのいい仕事とは、どんなものですか。3つ書きましょう。

使う人の身になって、

① ー 使いやすく

② ー じょうぶ

③ ー 長持ちする

(2) ー線②「それ」がさしている文章を書きましよう。

いつまでもうちにいて、おれにわらぐつを作ってくんないかな。

《新しい漢字》職人^{しよく}



「―それから、わかい大工さんは言ったのさ。使う人の身になって、心をこめて作ったものには、神様がはいっているのと同じなんだ。それを作った人も、神様とおんなじだ。おまんが来てくれたら神様みたいに大事にするつもりだよ、ってね。どうだい、いいはなしだろ。」

おばあちゃんは、そう言ってお茶を飲みました。

「ふうん、それで、おみつさん、その大工さんのところへおよめ行ったの。」

マサエが、目をくりくりさせてきました。

「ああ、行ったともさ。」

「それで、大工さん、おみつさんのことを、神様みたいに大事にした。」

「そうだねえ、神様とまではいかないようだったけど、でも、とてもやさしくしてくれたよ。」

「ふうん、じゃあ、おみつさん、幸せにくらしたんだね。」

「ああ、とっても幸せにくらしてるよ。」

「くらしてる。じゃ、おみつさんて、まだ生きてるの。」

「生きてるともね。」

「へえ。どこに。」

おばあちゃんは、にこにこして笑っています。マサエは、お母さんの顔を見ました。お母さんも、にこにこ笑っています。

「変なの、教えてくれたっていいでしょ。」

「そこで、お母さんが言いました。」

「マサエ、おばあちゃんの名前、知ってるでしょ。」

「うん。おばあちゃんの名前は、山田ミツ。―あつ。」

(1) 大工さんが、おみつさんを「神様みたいに大事にするつもりだよ」と言ったのは、なぜだと思いますか。文章を読んで思ったことを書きましよう。



「―それから、わかい大工さんは言ったのさ。使う人の身になって、心をこめて作ったものには、神様がはいっているのと同じなんだ。それを作った人も、神様とおなじだ。おまんが来てくれたら神様みたいに大事にするつもりだよ、ってね。どうだい、いいはなしだろ。」

おばあちゃんは、そう言ってお茶を飲みました。
「ふうん、それで、おみつさん、その大工さんのところへおよめ行ったの。」

マサエが、目をくりくりさせてききました。

「ああ、行ったともさ。」

「それで、大工さん、おみつさんのことを、神様みたいに大事にした。」

「そうだねえ、神様とまではいかないようだったけど、でも、とてもやさしくしてくれたよ。」

「ふうん、じゃあ、おみつさん、幸せにくらしたんだね。」

「ああ、とつても幸せにくらしてるよ。」

「くらしてる。じゃ、おみつさんて、まだ生きてるの。」

「生きてるともね。」

「へえ。どこに。」

おばあちゃんは、にこにこして笑っています。マサエは、お母さんの顔を見ました。お母さんも、にこにこ笑っています。

「変なの、教えてくれたっていいでしょ。」

そこで、お母さんが言いました。

「マサエ、おばあちゃんの名前、知ってるでしょ。」

「うん。おばあちゃんの名前は、山田ミツ。―あつ。」

- (1) 大工さんが、おみつさんを「神様みたいに大事にするつもりだよ」と言ったのは、なぜだと思いますか。文章を読んで思ったことを書きましよう。

大工さんは、使う人の身になって、心をこめて作ったものには、神様が入っているのと同じで、それを作った人も、神様とおなじだと考えてる。おみつさんもじょうぶで長持ちするようならぐつを作っているから、神様みたいに大事にしようと思った。



マサエは、パチンと手をたたいて、目をかがやかせました。

「おみつさんて、それじゃ、おばあちゃんのことだったの。あらじゃあ、その大工さんて、おじいちゃん。」

おばあちゃんはずなずいて、おし入れのたなの上を指さしました。

「あの箱を持ってきてごらん。」

マサエは、すぐふみ台を持ってきて、たなの上から、ほこりだらけのボール箱を下ろしてきました。開けてみると、つうんとかびくさいにおいがして、赤いつま皮のかかったきれいな雪げたが、きちんとならんでいました。

「あら、きれいだ。かわいいね。」

「このうちへおよめに来るとすぐ、おじいちゃんが買ってくれたんだよ。だけど、あんまりうれしくて、もったいなくてね。なかなかはく気になれなかった。かざり物じゃないんだぞって、おじいちゃんに笑われただけど、そのうちにそのうちにと思っているうちに、年をとってしまっただね。とうとうそれきりはかずじまいさ。」

「ふうん、だけど、おじいちゃんがおばあちゃんのために、せっせと働いて買ってくれたんだから、この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」

「ああ、きつといなるだろうね。だから、はけなくなっても、こうして大事にしまつとくんだよ。」

そのとき、げんかんのたたきで、カツカツと雪げたの雪をはらう音がしました。

「おや、おじいちゃんのお帰りだよ。」

マサエは、赤いつま皮の雪げたをかかえたまま、

「おかえんなさあい。」



まとめの問題

おばあちゃんの話の話を聞いて、マサエのわらぐつに対する見方は、どのように変わったでしょう。考えてみましょう。



マサエは、パチンと手をたたいて、目をかがやかせました。

「おみつさんて、それじゃ、おばあちゃんのことだったの。あらじゃあ、その大工さんて、おじいちゃん。」

おばあちゃんはずなずいて、おし入れのたなの上を指さしました。

「あの箱を持ってきてごらん。」

マサエは、すぐふみ台を持ってきて、たなの上から、ほこりだらけのボール箱を下ろしてきました。開けてみると、つうんとかびくさいにおいがして、赤いつま皮のかかったきれいな雪げたが、きちんとならんでいました。

「あら、きれいだ。かわいいね。」

「このうちへおよめに来るとすぐ、おじいちゃんが買ってくれたんだよ。だけど、あんまりうれしくて、もったいなくてね。なかなかはく気になれなかった。かざり物じゃないんだぞって、おじいちゃんに笑われただけど、そのうちにそのうちにと思っているうちに、年をとってしまっただけね。とうとうそれきりはかずじまいさ。」

「ふうん、だけど、おじいちゃんがおばあちゃんのために、せつせと働いて買ってくれたんだから、この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」

「ああ、きつといなるだろうね。だから、はけなくなっても、こうして大事にしまつとくんだよ。」

そのとき、げんかんのたたきで、カツカツと雪げたの雪をはらう音がしました。

「おや、おじいちゃんのお帰りだよ。」

マサエは、赤いつま皮の雪げたをかかえたまま、

「おかえんなさあい。」

とさげんで、げんかんへ飛び出していきました。



まとめの問題

おばあちゃんの話の話を聞いて、マサエのわらぐつに対する見方は、どのように変わったでしょう。考えてみましょう。

「おじいちゃんがおばあちゃんのために、せつせと働いて買ってくれたんだから、この雪げたの中にも、神様がいるかもしれない。」というマサエの言葉から、わらぐつにも神様がいて、いいものだと考えるようになった。



宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

新しい漢字／新しい読み方の漢字の練習をしましょう。

2. 音読

「わらぐつの中の神様」を読みましょう。

3. 作文の題材

自分の身近な物について作文を書きます。何について書くのか決めておきましょう。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

五年生

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月		
		<p>新聞記事から 新聞記事の見出しの 違いについて考えた ことを発表しよう。</p>	<p>自分の意見を持とう 自分の意見を発表し よう。話し手の意図 を聞き取ろう。</p>	<p>話す／聞く</p>	
	<p>大陸は動く 前半と後半に分けて、 書いてあることを短 くまとめよう。</p>	<p>新聞記事から 新聞記事を短くまと めよう。(要約しよ う。)</p> <p>詩を楽しもう 見たり感じたりした ことをもとに、心の つぶやきを言葉にし よう。</p>	<p>やどかり探検隊 物語を読んで、感じ たことや考えたこと を書こう。</p> <p>記録しよう 心に残ったことを、 書留めよう。</p>	<p>書く</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、記 事に対する自分の意 見を書こう。</p>
<p>こんな道があつたら 町の様子を観察し、 気が付いたことや 思ったことを書こう。</p>	<p>地図が見せる世界 筆者が最も言いたい ことは、どういうこ とだろう。</p> <p>大陸は動く 筆者はどんな考えで、 「大陸は動く」とい う題名をつけたのだ ろう。</p>	<p>詩を楽しもう 文語の詩を読もう。 「自分」の伝え方に ついて考えよう。</p>	<p>やどかり探検隊 主人公の気持ちかを考 え、自分と重ね合わ せて読もう。</p>	<p>読む</p>	<p>新聞記事 記事の内容を読み取 ろう。</p>
<p>麦畑 情景を思いうかべな がら読もう。登場人 物の心情と情景が一 体のものでえがかれ ていることを読み取 ろう。</p>	<p>つなぎ言葉 つなぎ言葉の働きを 知り、つなぎ言葉を 使えるようになるう。</p>	<p>同じ音の漢字 同じ音を持つ漢字そ れぞれの意味と使い 方を知ろう。</p>		<p>言葉</p>	<p>仮名づかいの決まり 発音と違う書き方を する、言葉について 知ろう。</p>

12月	11月	10月	9月	8月	
<p>目的を考えて話し合おう 目的にそった、有意義な話し合いにするための方法を知ろう。</p>					話す／聞く
<p>わらぐつの中の神 自分の身近な物について、それがどういうものかが読む人にかかるように書こう。</p>	<p>調査したことをまとめよう 調査したいことを決めて、調べたことを作文に書こう。</p>	<p>大造じいさんとガン 大造じいさんの気持ちの移り変わりをまとめよう。</p>	<p>身近な環境 身近な環境について調べ、わたしたちができることは何か書こう。</p>	<p>読書記録 読書記録の書き方を知り、自分の同署記録を書こう。 おみやげ 宇宙人の宿題 「宇宙人」「戦争」「現代文明」について思ったこと、考えたことを書こう。</p>	書く
<p>わらぐつの中の神様 おばあちゃんの思い出話と、その前後の現在の話を配した構成を理解しよう。</p>	<p>「その人」と出会って 筆者が手話を通して心を通わせた経験と、それにもとづいた感動を読み取ろう。</p>	<p>大造じいさんとガン 情景を思いうかべながら読もう。</p>	<p>一秒が一年をこわす わたしたちの周りで実際に起きている問題を考えよう。</p>	<p>おみやげ 宇宙人の宿題 宇宙人に目を向けた二つの作品を読み比べよう。</p>	読む
	<p>熟語を使って 熟語の読み方と意味を知ろう。</p>	<p>敬語 正しい敬語の使い方を知らう。日常生活で使っている敬語をまとめよう。</p>	<p>漢語と和語 漢語と和語について知り、意味の違いを調べよう。</p>	<p>漢字のなりたち 今わたしたち使っている漢字が、どのように作られたのか知らう。</p>	言葉

	3月	2月	1月	
	朗読をしよう 一年間 学習 した物語の中で、 一番好きな作品の 朗読をしよう。			話す／聞く
	月夜のみみずく 作品全体から感じ たこと、場面ごと の印象を書こう。	リレー物語を作ろう もらった物語の続 きを書こう。 推敲をしよう 書いた作文を、よ り良い文章になる ように推敲しよう。	言葉と気持ち 自分の気持ちや意 図を相手に伝える 短い文を書こう。	書く
	月夜のみみずく 「わたし」が「と うさん」と森に 入った初めての経 験、雪の森の中で 見た世界を想像し よう。	詩の広場 うれしいときや悲 しいとき、わたし たちの心は何を感 じ、目にはどんな 風景がうつってい るのか、考えよう。	言葉と気持ち 三つの事例を通し て、筆者は何を うったえようとし たのか考えよう。	読む
五年生の漢字 五年生で習った漢 字の復習をしよう。		言葉の組み立て 複合語の意味、ど んなふうにするの か考えよう。	漢字の読み方と使い 方 言葉によって読み 方が変わる漢字を 知り、正しく使い えるようになるう。	言葉